

双葉西小だより

令和5年 2月 1日 文責 学校長 窪田 正幸



暦の上ではもうすぐ春・・・

「冬来たりなば 春遠からじ」と言われますが、今年の冬は冷え込みの厳しい日が続いていて、例年以上に春の訪れが待ち遠しく感じられます。先週は、日本列島が10年に一度と言われた大寒波に覆われ、一時は学校周辺も吹雪のような強風と横なぐりの雪に見舞われました。北国では珍しくないのかもしれませんが、少し恐くなるような冬の厳しさを感じました。

一方で、暦の上ではもうすぐ立春、その前日は「節分」です。節分とは本来、「季節を分ける」つまり季節が移り替わる節目を指し、立春・立夏・立秋・立冬それぞれの前日に、一年に4回あったものでした。旧暦では、立春の頃が一年の始めとされ、最も重要視されていたため、次第に節分と言えば春の節分のみを指すようになっていったようです。

「節分」と言えば「豆まき」これは、「季節の変わり目には邪気(鬼)が入りやすい」と考えられていることから、「魔滅(まめ)=魔(鬼)を滅する」に通じる豆を鬼にぶつけることにより、邪気を追い払い、一年の無病息災を願うという意味あいがあるそうです。また、近年では「恵方巻き」を食べる習慣も一般化してきました。年の数だけ豆を食べながら、家族で一年の健康を願ったり、「恵方」(今年は南南東のやや南だそうです)に向かって恵方巻きを食べながら、一年の吉を祈ったりすることも、季節の行事として意義あることだと思います。

どうぞご家族で、2023年の節分を楽しんでいただきたいと思います。



自己肯定感・自己有用感を高める

「自己〇〇感」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。世間一般でも使われている言葉ですが、教育現場でもよく使われています。代表的なものとして、「自己肯定感」「自己有用感」があります。簡単に説明すると・・・

「自己肯定感」とは

- ・自分の存在(意義・意味)を信じる感情。自分で自分を肯定する感情。(「自尊感情」とも言う)
- ・ありのままの自分(良い自分も悪い自分も)を認めて、何事もポジティブに捉えられる人を「自己肯定感が高い」という。
- ・反対語は「自己否定感」 自分が嫌いで、自分が認められず、自己否定をくりかえし、ネガティブな感情に支配されている人を「自己否定感が高い=自己肯定感が低い」という。

「自己有用感」とは

- ・他者との関係の中で、自分の存在が誰かのために役に立っている、貢献していると認識できる時に起きる感情。
- ・他者の存在を前提として、自分の存在価値を感じたり、誰かに必要とされていると感じたりしている人を「自己有用感が高い」という。
- ・「自己有用感が低いと現在の幸福感が低い」との結果が出ている(内閣府)

自己有用感を高めるには、大前提として「自分の居場所と役割をつくる」事、そして人に感謝する癖(ありがとうございます・おかげさまで・・・)を付けることが必要です。人は、感謝されることで誰かの役に立っているという感覚を得ることができます。同時に、自分自身が人からされて幸せを感じたときには、心から感謝をします。この「感謝慣れ」がとても大切になってくるようです。

自己肯定感を高めるには、「子供の人権を認める」、もっと具体的に言うと「子供の話を馬鹿にしないで真面目に聞く。そして、子供の発想そのもの、行為のプロセスそのものを認める」ことが大切です。そうすれば、自分の内からわき上がってくるものを、子供自身が認められるようになります。それが子供にとって自信となり、蓄積されていくのです。

こうしてみると、当然ながら大人の声かけがとても重要であることが分かります。大人の言葉には、子供の「人生」を変える力があることを、私たちも肝に銘じていかななくてはならないと感じています。

ともに学びともに育つ 双西小の宝！！

3学期に入り、校内の感染症の状況も落ち着いている中、学校応援団等の方々のご支援をいただきながら、様々な学習が展開されています。いつもながら、本当に多くの皆さんに支えられながら子供たちの教育が行えていることに対し、感謝の気持ちで一杯です。また、応援団の方々から、『子供たちの学習と一緒に携われたり、この機会を通して他の応援団の方々と交流できたりすることができるのでとても楽しみにしている』といったご感想をいただいています。『ともに学びともに育つ』学校応援団活動は、双西小の宝だと思います。

1年生 昔の遊び

生活科「昔から伝わる遊びを楽しもう」の学習で、けん玉・あやとり・はねつき・コマ・竹とんぼのやり方を教えていただき、一緒に楽しみました。最初はなかなかうまくいかなかったようですが、子供たちは夢中で取り組み、短時間ではありましたが、その遊びの難しさと楽しさを感じていました。



2年生 体のバランス（転んだ時の受け身）

転んだ時の受け身の仕方を学びました。体験したのは、前受け身と前回り受け身です。突発的な転倒に際し、頭を打ったり手首を骨折したりすることを防ぐための姿勢や体の使い方を学びました。腕を使って衝撃を受け止めたり、頭をつかないよう体を回転させたりする動きが自然にできるよう、何回も繰り返していました。



3年生 昔の道具

甲斐市生涯学習文化課職員の方に講師をお願いし、社会科「変わる道具とくらし」の学習として、昔の道具やその特徴などをお聞きしました。炭火アイロンや手回し洗濯機、羽釜や炊飯器などの実物を見ながら、今の道具と比べたり昔の生活に思いを馳せたり、暮らしの変化を感じたりしていました。



4年生 彫刻刀（版画）

3年生までは紙版画を行っていましたが、4年生は初めて板を彫って原版をつくります。彫刻刀を使用する学習も初めてのため、学校応援団や保護者の方々のご支援をいただきながら進めました。延べ人数で20名ほどの方に、彫刻刀の使い方を丁寧に教えていただき、子供たちも安心して作業を進めることができました。



5年生 尺八体験

「日本の音楽に親しもう」では、和楽器の響きを味わいながら鑑賞をする学習があります。通常であれば教材CDで行うのですが、今回は尺八の演奏ができる教員OBの方をお招きし、生の音を聞かせていただきました。様々な種類の尺八もお持ちいただき、音色の違いなども体験することができ、貴重な機会となりました。



6年生 お話し会（ピッピーの会）

ピッピーの会による本の読み聞かせを行いました。語り手の出身地である北海道の話や、初めて水田を見た時の話など、その話術に引き込まれました。最初に読んでいただいた「怪談」では、情景がありありと思い浮かぶような朗読に、鳥肌が立つくらいの恐ろしさを感じました。読書の楽しさをいつも実感させてください。

